



元気
地域

づくりプロジェクト

令和7年度の実組みに関する 課題・検討

地域での取組みにおける課題の解決や、地域で今後「やってみたい!」と考えている活動を推進・支援していくため、令和7年度に取組むべき課題について検討します。

地域での取組みにおける課題

取組みの現状

- ➡ 校区ごとの取組内容のうち【お助けメイト(ちょっとしたお手伝い)】【外出支援(いすプロジェクト含む)】【地域元気づくり教室】については、実施している校区が少ない。
- ➡ 活動の活発さにおいて、校区差が大きい。



ギャップを埋めるために、取組みの推進をしていく必要がある。

必要とされている取組み

- ➡ 「これからやってみたいこと」「あったらいいな」という内容に、【ちょっとしたお手伝い】【外出支援】が多く挙げられていた。

活動の担い手における課題

現状

- ➡ 定期的に担当者が変わる校区がある。
- ➡ 本事業開始から約10年経過し、目的等が曖昧になっている。
- ➡ 担い手不足、高齢化。
- ➡ この事業について理解している人材不足、または不在。
- ➡ 地域住民に当事者意識がない。私事にならない。

○担当者が変わっても

- ・事業に対する理解を深めることができる
- ・引継ぎが十分にできることで、地域での取り組みを継続・発展していくことができる

○担当者が頑張るのではなく地域住民を巻き込む

こうしたシステムが必要

課題解決に向けた取組みについて

取組みの 推進

【交流会の定期開催によるサポート体制の構築】

- ・他校区とつながることで情報共有や広域での取組みを検討できる
- ・情報収集が可能
- ・先行事例や他市事例から事業の進め方を学ぶことができる

【実績報告様式の変更】

- ・何をどこに書くのかがわかりやすく、記録することで事業のスキームがわかる構成にすることで、次の展開が検討しやすくなる

【本事業のスキームがわかるツールの作成】

周知・理解 の促進

- ・引継ぎや地域住民への周知、事業に対する理解を深める際に使用することができる
- ・使うかどうかの選択を含め、各校区それぞれのタイミングで使用できる